

検図の過程で一般的にチェックする基本項目をまとめました。必要に応じて項目の追加や削除いただいたり、過去に起きた手戻りを項目に加えると、よりよい品質や進行の一助になります。

使い方のポイント

- 自己検図では整合性と指摘の出やすい項目を、第三者検図では全項目を確認する
- 指摘した項目に印を残しておく、どの観点で誤りが出やすいかの記録になる
- 半年～1年に一度、項目を見直す。使われない項目は削り、起きた手戻りは項目に加える

01 規格・図面ルール

- ☐ 社内で採用している製図規格やルールに沿って描かれているか
- ☐ 図面様式（表題欄、図番、尺度、投影法）が社内標準どおりか
- ☐ 線種・線の太さの使い分けが規格どおりか
- ☐ 文字・記号の表記が規格および社内ルールに沿っているか
- ☐ 図番・品名・改訂履歴が正しく記入されているか

02 寸法・公差

- ☐ 加工に必要な寸法がすべて記入されているか
- ☐ 寸法の重複や、矛盾する指示がないか
- ☐ 寸法の基準（データーム）が明確か
- ☐ 公差が機能上必要な範囲で設定されているか（過剰に厳しくないか）
- ☐ はめあい・幾何公差の指定が適切か
- ☐ 表面粗さの指示が必要な箇所に入っているか

03 形状の成立性

- ☐ 図面から立体形状が一意に読み取れるか
- ☐ 投影図同士で矛盾がないか
- ☐ 他部品との干渉がないか
- ☐ 組立の手順が成立するか（工具が入るか、組付けの順序に無理がないか）
- ☐ 可動部がある場合、動作範囲が確保されているか

04

関連文書との整合

- ☐ 製品仕様書の要件を満たしているか
- ☐ 組立図・部品図の間で寸法や形状に矛盾がないか
- ☐ 部品表（BOM）と図面の記載が一致しているか
- ☐ 材質・表面処理の指示が仕様と一致しているか
- ☐ 流用図面の場合、変更すべき箇所が漏れなく修正されているか

05

加工性・実現可能性

- ☐ 指定した材質でその形状が加工可能か
- ☐ 自社または取引先の設備で製造できるか
- ☐ 加工方法に対して公差が現実的か
- ☐ 使用する購入部品が入手可能か（廃番でないか）
- ☐ コスト面で無理のない指示になっているか

チェックリストで解決しないこと

チェックリストを使えば見落としを減らせますが、部品表との突き合わせや関連図面との整合の確認などは、人が目視で確認する必要があります。これらの作業は、ツールで自動化することで工数削減を目指せます。

図面チェック・検図を自動化するAI

Drawing-AI

検図工数を最大60%削減

回路図・金型図面・機械図面・建築図面など豊富な種類の図面に対応。図面チェック・検図工数の短縮で人手不足を支援。オンプレミス対応で高セキュア。機密図面管理も安心。

ficha
Make Things Intelligentficha.jp/drawing-ai